

職員の迅速な情報共有と作業の負担軽減を図った。

就労継続支援センター 煌樹
(就労継続支援B型)

課題

今まで使用していた会社用の携帯は折りたたみ携帯（通称ガラケー）で支援記録のアプリの取り込みなどができず、職員個人のスマホにアプリを取り込んでもらい入力などを行っている。そのため、職員個人の負担も大きい。取引先との連絡は会社用の携帯で現在はできているが、今後の通信環境を考えスマートフォンへの移行を考えていた。

スマホへの
移行



成果

会社用の携帯をスマホへ移行したことにより、支援記録のアプリを導入し、職員の空き時間に支援記録を入力でき、利用者の状況把握などがしやすくなった。（ヒヤリハットの防止）
また、利用者さんとの連絡もラインでの連絡が増えてきていたため、職員個人とつながるのではなく会社用のスマホとつながることで職員個人の負担も軽減された。
職員同士の情報共有をはかるためグループラインを活用し、必要な情報共有を図れるようになった。

【職員の声など】

- ・紙媒体に書き込んで提出したりなど、負担を感じていたが自分の空き時間に入力できよかった。
- ・自分のスマホで連絡を取ったり、支援記録を入力しなくてよくなりありがたい。
- ・グループラインの活用で、利用者さんの状況把握が以前よりしやすくなった。
- ・ガラケーで文字を入力するのは大変だったが、スマホになり入力しやすくなった。

【悪かったところ】

- ・自分のスマホと仕様が違うためなれるまでに時間がかかった。
- ・自分のスマホよりもサイズが小さいため支援記録を入力するときに入力しづらいと思った。

【今後の課題】

- ・作業先に持って出ることがあるため、紛失や破損など注意が必要。
- ・作業先などで利用者情報を入力する際には個人情報の保護など注意が必要。
- ・故障に備えてバックアップを取るなどの体制整備が必要。

